

学年	教科等	題材名	日時
第5学年	図画工作科	さわって楽しむ水族館	平成29年10月27日(金)5校時
本実践の主張	質感を中心とした造形的な見方・考え方が働くようにするために、水分量で質感が変化する土粘土の特徴を生かして、「触ったときの感触や見たときの表面の感じ」を工夫する「さわって楽しむ水族館」という題材を開発しました。本時では、表面の質感が命を吹き込むために重要であることを理解させるため、表面の質感の異なる参考作品を比較することで、質感にこだわって表面を工夫することができるようにしました。		

造形的な見方・考え方を働かせるための手立て

触ってみたとき、どちらが生き生きとしているかな？



表面の水分量を多くした作品

表面に水分量の少ない土粘土を貼り付けた作品

ぼくは、イッパクに命を吹き込むために、固い粘土で角をつくって、体はぬるぬるするように筆で水をぬって仕上げたぞ！



質感の異なる作品を実際に触って比較することで、命を吹き込むためには表面の質感の工夫が大切であることに気付かせる。

体が柔らかくてぬるぬるしているから、こちらの方が生き生きしているかな？



こちらの方が、ざらざらとしていて本物のフグのおなかみたい。



ひっかいてみたらどうなるかな？もこもこして本物のうろこみたいになったね！

様々な用具を試すことで、自分の表現に合った質感を見付けさせる。

表面の質感をどのように工夫したかを記述させることで、造形的な視点について理解が深まるようにする。



表現の試しができる粘土を貼り付けた板の準備

水の生き物に命を吹き込むには、表面の工夫が大切なんだ！



こんな感じだったら、私の作品に合うかも！

表現の工夫のヒントコーナー

表現を探求し続ける意欲を高める教師の働きかけ

前時に見られた表現を探求し続ける姿を、教師が価値付け、称賛する。

子どもの表現を探求する意欲に応じて教師が働きかける。

表現の探求に夢中になっている子どもに対して

作品が完成し、満足感を得て、表現を探求し続ける意欲が低下している子どもに対して

この前の時間では、〇〇くんが土粘土に水を加えてイメージどおりの感触になるまでつくり込んでいた姿がすばらしいと思いました。

シーラカンスのごつごつした力強い感じになるように工夫するぞ！

アンモナイトの貝殻のざらざらした感じがおもしろいね！私の作品に生かせるかな？

先生の作品を工夫していたら、自分の作品にも試したいことが出てきたよ！



子どもの探求する姿を写真等で記録しておく



仲間の表現を見て回らせる



教師作品の表面の質感を工夫させる

授業をふりかえって

- 質感を中心とした題材を開発したことで、子どもは質感をもとに豊かな発想や構想をすることができた。
- 質感だけを取り出して子どもの活動を工夫させることは難しく、質感以外の色や形等の造形的な要素も認めながら指導していく必要がある。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

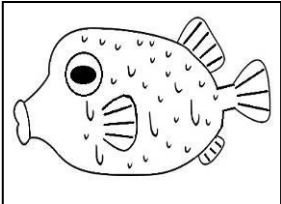
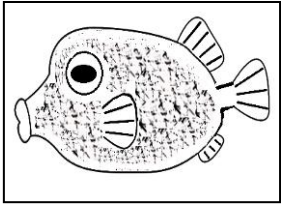
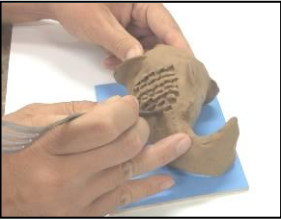

○ 指導計画（5時間）

- (1) 粘土の感触から水の生き物を表すことについて構想する。————— 2時間
 (2) 粘土の感触を生かした水の生き物をつくる。————— 2時間
 ・ 粘土の水分量による質感の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 ・ 粘土の表面加工による質感の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1（本時）
 (3) 作品に触れながら鑑賞し、自分や仲間の表現について話し合う。————— 1時間

○ 本時の目標

表面の質感を確かめながら、つくりたい水の生き物の表面を工夫することができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習内容について話し合う。</p> <p>○ 質感の違う2つの作品の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表面の工夫による粘土の質感の変化 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ぬるぬるした質感</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ざらざらした質感</p> </div> </div> <p>○ 本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>さわって楽しめる水族館をひらくために、水の生き物に命を吹き込もう。</p> </div> <p>2 本時の活動について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 時間・場・用具 ○ 表現を探求する姿 <p>3 水の生き物に命を吹き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表面の工夫の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・ つまみだし ・ ひっかき ・ 水を塗る ・ 水分量の違う粘土付け 等 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>フォークの柄でひっかく</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>筆で水を塗る</p> </div> </div> <p>4 本時の学習についてふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 命を吹き込むための表面の質感の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時が水族館のオープンであることを確認し、前時までにつくった水の生き物に命を吹き込むことを知らせることで、つくりたいという意欲を高めることができるようにする。 ○ 粘土の表面の工夫の仕方が異なる2つの参考作品に触れさせることで、表面を工夫すると触ったときの感触が大きく変化することに気付くことができるようにする。 ○ 参考作品に触れさせた際に、「生き生きしている水の生き物はどちらか。」と問うことで、表面の質感が命を吹き込むために重要な視点であることを理解できるようにする。 ○ 前時までに見られた表現を探求し続けている具体的な姿を紹介し称賛することで、本時も命を吹き込むために表現を探求し続けようとする意識を高めることができるようにする。 ○ どのように工夫するのか分からない子どもへは、つくりたい水の生き物の触った感触に近いサンプルはどれか尋ねることで、工夫することができるようにする。 ○ 粘土を張り付けた板を準備し、表面の質感を工夫するための様々な用具を試すことができるようにすることで、自分の表現に生かしたい質感を見付けることができるようにする。 ○ 早く完成し、満足感を得て、造形活動への意欲が低下した子どもへは、以下のような手立てを取ることで、表現を工夫する意欲を高めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間の作品を見て回り、生かせそうな表現がないか考えさせる。 ・ 参考作品の表面の質感を工夫させる。 ○ 命を吹き込むためにどのように工夫したかを学習プリントに記入させることで、質感を表現するための工夫を理解できるようにする。

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

水の中でゆらゆらと泳ぐクラゲの触った感触を表したかったら、やわらかな粘土をつかって表してみたよ。でも、もっとつるつるした感じを出したかったから、筆に水をつけて塗ったり、水に溶かした粘土を少しずつ表面にかけたりしてみたよ。【創造的な技能】

